

## 1 【不登校・中途退学者を減らす】 中期的な重点取組目標

○校内別室支援事業実施校として以下の取組みを行ってきた。

- ・チューターによる校内個別学習指導
- ・不登校生への家庭訪問
- ・オンラインによる個別支援（学習、進路指導、相談）
- ・校内居場所づくりの整備
- ・アニマルセラピー（ポニー、犬）
- ・食糧支援（毎週木曜日）

数値目標：不登校 100 名未満 転退学 25 名未満 （ ）内は昨年度

数値結果：不登校 279 名（227） 転退学 29 名（25）

退学 23 名（37） 転学 29 名（25）

成果：退学は昨年度より減少した。

課題：不登校が大きく増えた。Y S W、S Cとの連携、教室に入れない生徒の居場所づくりの組織的運営の構築が必要である。

## 2 授業改善（わかりやすい授業）

○「学び直し」「居場所づくり」「キャリア指導」を三本柱に、基礎学力の向上と探究的な学びについて重点的に取り組んできた。

○地域探究推進校として、探究的な学びを通して地域に貢献できる人材の育成。

○教育課程・学習指導

学び直しと「戻り履修」の新教育課程を精査していく。

数値結果：授業満足度 87%（84） 単位修得率 87%（91.6）

成果：授業満足度と単位修得率も昨年度並みであった。

課題：教科の組織的補習体制の整備による個別指導の充実 授業満足度のさらなる向上、補習の組織的な取り組み

○生活指導

【体罰根絶・いじめ未然防止 部活動の活性化 生活規律の遵守 規範意識と社会性のある生徒の育成】

就労に向けた社会性の育成を生活指導の中核とする。

数値目標：年間のべ遅刻者数 10,000 名未満 部活動加入率 30%以上

数値結果：年間遅刻者数 11,772 名（11,560） 部活加入率 38%（35%）

成果：部活加入率の上昇

課題：遅刻防止の組織的対応の充実 さらなる部活動等の居場所づくりの構築

○進路指導 【地元企業への就職の推進 地元を支える人材の育成】

地域探究推進校として八王子産学共同体のセンター校の機能と役割を担う。

数値目標：進路決定率 83%以上 未定者 40 名未満 （ ）は昨年度数値

数値結果：進路決定率 83%（80%） 未定者 36 名（43）

成果：2 年次インターンシップの実現 未定者が年々減少している

課題：個に応じたキャリア教育の充実、推進

○心身の健康づくり 【生徒の特性に応じた多様で柔軟な教育活動の推進 生命にかかわる事故の未然防止】

生徒の S O S を拾い上げる相談体制を構築し生命にかかわる事故を未然に防止する。

成果：子ども食堂・フードバンクとの連携で毎週定例の食糧支援実施

課題：生徒のSOSを見逃さずに拾い上げ、医療、福祉の外部機関につなぐ、相談支援体制の充実

○家庭・地域の交流 広報活動 【地域交流や学校PRの推進 地域に愛される学校づくり】

本校のミッションと地域が求める本校の役割を踏まえた広報活動を推進する。

数値目標：入試倍率 一般枠 1.1 倍程度 チャレンジ 1.5 倍程度

数値結果：入試倍率 一般枠 1.2 倍 (1.2 倍) チャレンジ 1.33 倍 (1.8)

成果：本校の指導方針が広く理解されており、後期募集においても I 部、II 部では高倍率

課題：III部の希望者が少なく、定数割れの状況である。

○経営企画室・職場環境整備 【ライフ・ワーク・バランスの推進 困窮する生活を想定した教育活動の推進】

成果：超過勤務の縮減を実現した。

課題：男性職員が育児休業を取得しやすい環境づくりの推進が課題である。

【最後に】

本校のスクールミッションは、「学び直し」と「居場所づくり」に集約される。様々な困難な背景を抱える生徒、保護者に寄り添った教育を心がけているが、一学年 10 学級、学校で 40 学級という大規模であることや、昼夜間のため放課後がない、教員の勤務体制が 2 形態（午前・午後／午後・夜間）に分かれていることから物理的制約を克服していくことが課題である。もとより、教員だけでは解決できない課題が頻出するため、地域教育支援部派遣の YSW、地域の機関と連携を密にし、チーム学校で課題解決に向けて取り組んでいる。卒業する、しないに関わらず、生徒の居場所づくり、見守り環境の整備などの社会的なサポートの充実が必要である。